

地方都市近郊農業の現況と課題(2)

—— 上田市塩田地区の事例 ——

The Agrarian Problem around a Provincial Town (2)

野 原 建 一
Ken'ichi Nohara

(5)

前号(第8巻第1号 1986年8月)では、上田市塩田地区の農業の現況を集落ごとに検討してきた。ここでは、(1)専兼別農家戸数と農家人口の推移、(2)経営耕地規模別農家数の推移、(3)農作物別収穫面積の変化について、それぞれ集落ごとに検討をくわえた。同時に、塩田地区を中塩田、西塩田、東塩田に区分し、それぞれの地域の特色を把握することに努めた。

その結果、(1)専兼別農家戸数では、1970年から75年にかけては、第2種兼業化がすすみ、75年から80年にかけては、飽和状態をしめすように第2種兼業化ののびが鈍化していること、この傾向は全国的な傾向に一致していることなどがわかった。

ただし、1980年から85年にかけては、第1種兼業の減少ぶりが目立ち、逆に専業や第2種兼業が微増ないしは、漸増するという塩田地区の特色がうかがえる。この傾向が、地方都市近郊農業のもつ特色として前号では評価した。

(2)の経営耕地規模別農家数では、塩田地区での中規模的存在である0.5～1.0、1.0～2.0ヘクタール層の農家数が減少し、0.5未満層が増大しているという傾向がみられることを指摘した。それは「両極分解」というものではなく、中規模層の小規模層への「崩落現象」としてとらえられるものである。この現象を農家人口の高齢化問題とかさねあわせるとき、そこに現在かかえる農業危機の側面をみることができる。

この傾向は、全国的趨勢でもあるが、塩田地区の場合、1980年から85年にかけて、すなわちここ数年に関してみるかぎり、ほとんど「崩落現象」

がみられない。農家総数の減少はみられるものの、階層構成の全体的枠組の変化が、あまりみられないのである。したがって、それは、「年金型専業農家」の微増とともに、再評価すべき現象である。

(3)の農作物別収穫面積では、塩田地区の地域ごとおよび、集落ごとの特色が指摘された。たとえば、東塩田地域でみられた「工芸作物」なかんずく朝鮮人参の作付面積の増加は、その地域の特色をしめしている。しかし、その特色も1985年後半から激しくなった円高の影響をどううけて変化していくか気がかりである。

全体的には稲作への依存度が高いが、1975年以降は、減反政策の影響が大きく、麦・いも・豆類の増加ぶりが注目された。また、作付面積の減少はそれほど多くはない。これは、階層構成の変化がみられないこととも相関する現象であろう。零細小企模での営農が、「恒常的勤務」から解放されたあと、つづけられていくすがたがそこにみられるのである。

以上の前号でみた諸点をふまえて、本号においてひきつづきのこされた諸問題について検討をくわえていくことにする。ここでも各年度の「農林業センサス」が基礎資料である。

(6)

ある地域の農業の特色をみる場合、農作物別収穫面積がどのように変化しているか、を検討することが大切である。と同時に、農産物の販売金額のなかで、どの農作物がその農家で1位をしめているのか、をみることもその地域の特色を知るうえで重要なことである。農作物別収穫面積につい

ては、前号（第8巻第1号）で検討したので、ここでは、農産物販売金額1位の推移をみていくことにしよう（第6表）。

まず中塩田地域から検討してみる。この地域は五加を中心に商業が展開し、中野を中心に、宅地化が80年代にはいって急速にすすんだところである。上田市役所塩田支所（旧塩田町役場）も位置し、いわば「塩田平」の中核的地域といえる。

この地域は、第6表からみるかぎり、1970年代と80年代にわけて特徴的な変化がみられる。すなわち、上本郷、中野、舞田、八木沢などでは、養蚕のしめる比重が80年代にはいって極端に低くなっていることがわかる。かって養蚕地帯として戦前から発展してきたそのおかげはない。戦後になって稚蚕共同飼育など合理化につとめたが、80年代にはいってその退潮をくいとめることはできなかった。

同様のことは、畜産についてもいえる。畜産では養鶏が衰退し、肉牛と養豚が中心で現状維持されている。

稲作は前号でも述べたように、80年代では一層減反政策が浸透し、その比重を低めている。かわって、麦・芋・豆類が減反の見かえりとして増加している。

一方、換金作物としての果樹類は、ぶどうとりんごが主力であるが、下小島をのぞいて全体に横ばいかあるいは、減少している。稲作の徹底した省力化による負担軽減にくらべ、果樹類の省力化はそれほどすすんでいない。恒常的勤務を主とする兼業農家が、合理化しやすい稲作に傾斜する理由がそこにある。なかでも、上小島は稲作一辺倒という典型をみせている。

なお、野菜その他には、施設園芸、花きがふくまれている。下小島、保野、舞田などでは、果樹、畜産にかわる換金性農産物として施設園芸、花きがとりいれられている。とりわけ畜産は、宅地化の進展とともに、拡充が困難になる傾向にある。

また、中塩田地域では、工芸作物すなわち、朝鮮人参は、他地域ほどのびていない。全体では稲作に比重をおいた地域といえる。

つぎに西塩田地域に目をうつそう。この地域は一部山間地帯に広がっているため、前の中塩田にくらべ養蚕業はさかんであった。西前山、手塚、

山田、野倉などでは、稲に匹敵するかあるいは、それを凌駕さえしていた時期があった。しかし、75年から80年にかけて、養蚕は稲または、果樹類にとってかわられていった。

こうした推移のなかで注目すべきは、畜産の拡充である。なかでも養豚が主力である。養鶏は、75年から減少している。他に酪農があるが、養豚にくらべればわずかである。したがって、西塩田の畜産は、養豚をあらわすといつてよい。

その点を別の統計でみてみると、西塩田地域の1970年の養豚農家数は、85戸で飼育頭数は、2,463頭である。1985年では、それが17戸で4,615頭となっている。つまり、養豚農家数は80パーセント減少しているが、飼育頭数は逆に、87パーセント増加しているのである。1戸当りの飼育頭数が、この15年の間に約10倍ふえていることになる。養豚専門化がすすんだわけである。⁽²⁾

とりわけ東前山では、1985年、3戸で3,057という1戸当り1,000頭以上という養豚経営を維持している。またこの集落の果樹類では、りんご、ぶどうの栽培面積も広く、全体にバランスのとれた農産物を生産しているところである。

西前山も全体にバランスがとれているが、80～85年にかけて、工芸作物に特化しているようすが表からうかがえる。その他では、比較的過疎化がすすんでいる野倉では、省力化作物となっている稲への傾斜が強まっていることが注目される。手塚では、畜産、養蚕の地盤沈下が、相対的に稲を押しあげる形になっている。総じて、西塩田は中塩田にくらべ、稲への依存はそれほど高くないといえよう。

つぎに東塩田地域をみる。この地域も西塩田地域と同様に、一部山陵の麓にひろがっていることもあって、1970年代まで養蚕がさかんにおこなわれたところである。したがって、畑作への関心も高く、総じて農家経営は積極的な姿勢をみせているところでもある。

養蚕についてみると、平井寺、鈴子、石神、柳沢のいずれの集落も75年を境に、急速に撤退しているのがわかる（(3)－①～④）。かわって、工芸作物、果樹類が80年からさかんになってきている。

しかし、平井寺、鈴子、下組などでは、稲の比重も増している。ちなみに、いまあげた集落の2

第6表 農産物販売金額1位の部門別農家数

(単位:戸)

(1) 中塩田地域

① 下本郷

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	43			2	2	2	6	55
1975	33			4		2	7	46
1980	33	1		4		2	7	47
1985	34	5		3		1	3	46

② 上本郷

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	44				1	1	12	58
1975	50			1		1	1	53
1980	48	3		2		1	5	59
1985	46	7	1	1	1	1		57

③ 五加

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	152	2	1	8		3	1	167
1975	121		1	9	1	2	1	135
1980	127	3	2	8	1	2	1	144
1985	113	29	1	6		2		151

④ 中野

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	70			2	1	1	3	77
1975	60			1	1		4	66
1980	66			2	1		3	72
1985	62	1		2	2			67

⑤ 上小島

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	40							40
1975	40							40
1980	38				1	1		40
1985	38				1	1		41

⑥ 下小島

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	59			1		3	3	66
1975	52			3		1	5	61
1980	55	3		4	2	1	1	66
1985	48	2		7	2		2	61

⑦ 保野

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	123			7		2	1	133
1975	104			7	2	2	2	117
1980	97	2		9	2	3	1	114
1985	83	6		6	4	1	1	101

⑧ 舞田

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	61			3		4	9	77
1975	57			3		5	8	73
1980	59	2		1	2	4	5	73
1985	52	8		2	3	4		69

⑨ 八木沢

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	86			3		3	13	105
1975	86			1		2	10	99
1980	91	6		1		1	7	106
1985	91	8		1		1	1	102

⑩ 中塩田全地域

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	678	2	1	26	4	19	48	778
1975	603		1	29	4	15	38	690
1980	614	20	2	31	9	15	30	721
1985	567	67	2	28	13	11	7	695

(2) 西塩田地域

① 十 人

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	29					11		40
1975	26					9		35
1980	33					7		40
1985	29	1				7		37

② 東前山

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	25	3	6	11	1	11	24	81
1975	10	1	8	20	1	9	8	57
1980	21		9	25		8	7	70
1985	22	3	7	23	1	5	2	63

③ 西前山

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	13	2	2	3		4	63	87
1975	22		6	2	2	3	32	67
1980	31		9	8	3	2	27	80
1985	26	10	17	5	1	1	13	70

④ 手塚

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	95	2	3		2	11	49	162
1975	114		4	1		4	21	144
1980	118	2	8	2		4	19	153
1985	129	4	6	4	1	2	3	149

⑤ 塩田新町

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	45					2	9	56
1975	39						9	48
1980	41	1		1	3	1	5	52
1985	41	2		1				44

⑥ 山 田

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	37			2	1	2	25	67
1975	37			2		1	14	54
1980	52		1	2		1	5	61
1985	23	19		3	1	1	5	52

⑦ 野 倉

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	6				4		47	57
1975	10	1	1			2	36	50
1980	9	4	1				30	44
1985	13	4	2		1	1	9	30

⑧ 西塩田全地域

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	250	7	11	16	8	41	217	550
1975	258	2	19	25	3	28	120	455
1980	305	7	28	38	6	23	93	500
1985	283	43	29	36	5	17	32	445

(3) 東塩田地域

① 平井寺

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	11	1	2	1	1	3	31	50
1975	13		7	1	2	2	17	42
1980	16	1	12	6			20	55
1985	19	2	11		2		3	37

② 鈴 子

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	11	2	3	4	1	4	37	62
1975	9		3	4			25	41
1980	16	1	12	6			20	55
1985	26	1	9	8	2	1	5	52

③ 石 神

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	35	2		13	2	3	37	92
1975	35	1	6	15	1	7	12	77
1980	34	2	7	28		3	11	85
1985	27	4	16	26		3	3	79

④ 柳 沢

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	41	1		3	3	2	39	89
1975	38		1	3	3	4	23	72
1980	45	5	7	7	2	1	7	74
1985	35	6	7	6	3	1	6	64

⑤ 下之郷

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	185	2		8	3	3	9	210
1975	119		2	15	8	3	20	167
1980	161	1	5	10	9	3	5	194
1985	153	2	4	12	7	1	5	184

⑥ 奈良尾

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	2	2	19	21	36	6	24	110
1975	10	4	35	16	16	3	6	90
1980	7	2	32	23	21	3	5	93
1985	8		38	23	20	3		92

⑦ 中 組

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	56	1	7	5	15	3	37	124
1975	36	4	35	2	9	3	6	95
1980	38		37	13	8	2	9	107
1985	40	2	39	7	8	3	2	101

⑧ 下 組

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	79		1	5	2	7	5	99
1975	66		1	8	3	4	5	87
1980	67		2	14	2	4	4	93
1985	67		2	16	4	1		90

⑨ 東塩田全地域

	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜その他	畜産	養蚕	計
1970	420	11	32	60	63	31	219	836
1975	326	9	90	64	42	26	114	671
1980	391	12	107	102	45	17	65	739
1985	375	17	126	98	46	13	24	699

兼の動向をみると、いずれも80年代にはいって2兼化がすすみ、80パーセント前後の割合をしめるにいたっている。すなわち、ここでも省力化農産物としての稲への傾斜が、2兼化とともに強まってきたことが指摘されるのである。稲はもはや手間ひまのかかる農作物ではない。のちにみる機械化、農薬（除草・除虫）、多肥というより過肥の浸透で、稲は比較的楽な農作物となってきたことが、こうした現象をみせることになったのだろう。

そうしたなかで目をひくのが、奈良尾、中組（3）-⑥⑦である。奈良尾は、専業農家、兼業農家の割合が安定している。中組も同様のことがいえる。つまり、1970年から85年にかけて2兼化がそれほど進展していない。奈良尾の場合、約53パーセント、中組は約68パーセントでとどまっている。表でみるように、奈良尾では、工芸作物、果樹類、花きなどに農産物の比重がおかれている。中組でも稲以外の農産物に積極的にとりくんでいるのがうかがわれる。

東塩田地域では、全体に西塩田ほど畜産には力をいれていない。むしろ、工芸作物（朝鮮人参）や果樹類の生産に力点がおかれている。したがって、減反政策の影響による畑作の増加、という一面は否定できないが、塩田地区のなかでは、多様な農産物を積極的に追いもとめている姿が、東塩

田にはみられるのである。そのため、外的経済環境の変化、たとえば、「円高不況」のような景気変動の影響をもっともうけやすいという不安定さのこることになる。朝鮮人参はその典型例であろう。

ただ総じて東塩田地域は、経営耕地規模でも他地域にくらべ中規模層が安定した推移をみせていたこととも関連して、バランスのとれた農産物生産をおこなっているところであるといえよう。

(7)

ではそうした農産物生産に従事している農家の就業状態をつぎにみていくことにする。（第7表）なお第7表に集計されている農家人口は、16才以上の労働人口である。

この表では、とくに自家農業に従事している人の推移とその割合をみることによって、農家人口の就業形態を把握することができる。また、男子と女子を対比して、その就業構成をみることもできる。すなわち、農業の担い手が捕捉できるわけである³⁾。

まず中塩田地域から検討してみよう。この地域は、経営耕地の零細小規模化がとくにすすんでいるため、自家農業だけに従事する人は、1970年か

ら75年にかけてかなり減少している。ただ、80年から85年にかけて、下本郷、保野、八木沢のように減少しているところもあるが、他の集落ではむしろわずかながら増加している。とくに、上本郷、中野、舞田の増加が目につく。

就業構成では、女子の自家農業にシめる比重は他の地域にくらべ高い。たとえば、自家農業だけに従事している女子の割合は、68パーセントをしめている。とくに下本郷、五加、上小島は約70パーセントをしめ、いわゆる「かあちゃん農業」の形態をしめている。

他産業への就業数は、「他の仕事」にどれくらい従事しているか、でみることができる。ここでは、他産業のみの就業人口が、各集落とも増加していて、とくに女子の増加が80年代にはいって顕著であるのがわかる。とりわけ、五加は商業地としての立地から80～85年の女子の他産業への進出がめざましい。

全体として、中塩田では、男子が「年金型専業」の増加という傾向と相関して、自家農業だけに従事する人数が85年に漸増していることは注目してよいだろう。農家人口の高齢化ともなう新たな「婦農現象」といえるだろう。従来の不況または恐慌ともなう「婦農」とは別の評価がなされなければならない。

西塩田地域では、全般的には、自家農業に専従する人数はやはり年々減少している。山間部で過疎化がすすむ野倉の減少ぶりはさておいても、西前山の85年にかけての減少は、0.5～1.0ヘクタール層の激減、0.5未満層の激増と無関係ではない。2兼化が急速にすすんだ結果であろう。

この地域で農業専従者にシめる女子の割合は、61パーセントと高いものの中塩田ほどではない。ただ80年から85年にかけて、女子専従者が男子にくらべ急速に減少している点が注目される。同時に、それは女子の他産業へ就業する数の増加となってあらわれる。

男子も他産業へ就業するケースが増加している。農業における省力化の進展は、他産業に専従する数を今後ますます増加させていこう。また、他産業へ就業するもっとも基本的動機である農産物販売金額の停滞、すなわち、農業収入ののび悩みが、他産業への就業に一層拍車をかけている点

を忘れてはならない。

十人、手塚、塩田新町、山田では、80年代にはいって女子の農業専従または農業を主とするものが減少している。それにかわって男子の農業専従がわずかながらも増加している。男子の定年にもなう婦農は、女子の他産業への就業機会をすこしずつふやしていることにもなる。

東塩田地域では、男子の農業専従者が85年になって増加させている集落がある。鈴子、石神、柳沢、下組がそれで、80年にかけて減少の一途をたどった傾向に歯どめがかかったようすである。

しかし、平井寺、下之郷のように80年から85年にかけて男子の専従者を減らしているところもある。とくに下之郷では、男子のみならず女子の専従者も大きく減少し、他産業へ流出している傾向が85年になって強まっている。大型小売店の進出をはじめとする商業地の拡張、中小工場の進出が他産業への流出を促がしていると思われる。

先にあげた男子専従者のふえた集落では、かわりに女子の専従者や農業を主とするものの数を減らしており、農業従事者の総数は、それほどの変化はない。むしろ、他産業への女子労働者の増加をどう評価するかが残された問題である。

東塩田全体では、西塩田と同様に85年にかけて男女とも農業専従者が減少する傾向にある。ただそれぞれの減少率は、西塩田の男子が13パーセントに対し東塩田は2パーセント、女子の22パーセントに対し13パーセントと低い。その点、中塩田の男子専従者が、85年になって反転増加になったことと対照的である。急減をみせる西塩田が、やがて中塩田のようにある時期に反転するのか、東塩田の推移とともに注目されるところである。

(8)

ところで塩田地区が郷村的伝統をもった農村地帯であると前に評価したが、そうした農村社会のようすの一端をうかがうものとして第8表の雇用労働の諸形態がある。またそれは、社会構成のみならず農家経営の状況を知る手がかりにもなる。

まず塩田地区全体では、1970～75年にかけて雇入れ農家数、雇用のべ人数とも激減している。なかでも中塩田、東塩田において激しい。その理

第7表 就業状態別農家人口

(1) 中塩田地域

① 下本郷

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	22		65	2	6	95
1975	13	5	62	6	3	89
1980	21	1	58		5	85
1985	17	4	40	6	9	76

② 上本郷

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	26	5	62	6	9	108
1975	24	4	73	1	7	109
1980	15	3	74	9	11	112
1985	21	1	74	6	1	103

③ 五加

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	70	10	202	10	10	302
1975	59	4	185	12	14	274
1980	51	3	177	14	29	274
1985	50	3	154	29	34	270

④ 中野

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	52	3	65	1	5	126
1975	39	4	69	3	2	117
1980	25	6	67	7	8	114
1985	32	1	58	10	5	106

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
62	3	28	2	23	118	213
53	3	28	3	22	109	198
60		30	2	12	104	189
39		34	6	16	95	171

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
70	3	28	10	20	131	239
69	2	38	4	10	131	240
50	1	33	9	27	120	232
46		35	11	22	114	217

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
207	2	96	4	42	351	653
137	6	95	11	59	308	582
103	3	96	32	85	319	593
117	2	86	48	61	314	584

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
82	5	39	5	17	148	274
71		38		24	133	250
61	4	26	7	16	114	227
60		32	4	20	116	222

⑤ 上小島

	男					小 計
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	37	1	27	2	3	70
1975	12	1	48	1	17	79
1980	11	4	45	7	11	78
1985	14	2	55	3	6	80

⑥ 下小島

	男					小 計
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	38	10	55	1	5	109
1975	32	8	70	4	5	119
1980	20	9	60	11	12	112
1985	23	7	70	3	4	107

⑦ 保 野

	男					小 計
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	66	11	132	6	9	224
1975	53	11	136	3	18	221
1980	45	8	126	7	16	202
1985	38	7	122	15	18	200

⑧ 舞 田

	男					小 計
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	45	11	71	2	3	132
1975	31	12	64	2	9	118
1980	26	5	72	4	11	118
1985	34	2	69	8	7	120

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
50		10	6	12	78	148
40		26	1	14	81	160
32	3	14	6	23	78	156
32	1	19	7	15	74	154

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
86	3	21	4	20	134	243
67	6	38	1	11	123	242
44	5	22	18	32	121	233
50	1	37	5	21	114	221

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
150	8	67	4	32	261	485
127	3	87	7	29	253	474
106	2	65	16	53	242	444
84	2	74	17	47	224	424

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
102	3	27	6	12	150	282
82	6	31	5	17	141	259
68	1	43	4	17	133	251
66		34	13	17	130	250

⑨ 八木沢

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	55	14	94	23	9	195
1975	43	7	114	7	13	184
1980	46	7	103	11	20	187
1985	39	4	111	11	20	185

⑩ 中塩田全地域

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	411	65	773	53	59	1,361
1975	306	56	821	39	88	1,310
1980	260	46	782	70	123	1,281
1985	268	31	753	91	104	1,247

(2) 西塩田地域

① 十 人

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	32	3	28	18	3	66
1975	30	4	27	2	6	69
1980	16	5	44	2	2	69
1985	22	1	35	3	1	62

② 東前山

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	59	7	63	11	9	156
1975	51	12	72	5	10	150
1980	48	3	72	8	15	146
1985	42	2	70	7	14	135

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
106	9	45	18	42	220	415
91	8	74	5	27	205	389
81	5	62	12	37	197	384
81	5	67	16	35	204	389

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
915	36	361	59	220	1,591	2,952
737	34	455	37	221	1,484	2,794
605	24	391	106	302	1,428	2,709
575	11	418	127	254	1,385	2,632

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
50	2	27	1	3	83	149
40	3	16	1	11	71	140
34		20	1	7	62	131
27		18	2	8	55	117

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
95		37	10	30	172	328
92	1	45	10	13	161	311
84		38	10	24	156	302
71	2	35	14	27	149	284

③ 西前山

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	71	16	60	6	10	168
1975	51	12	82	5	6	156
1980	50	7	80	7	6	150
1985	27	17	89	5	8	146

④ 手塚

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	94	18	138	5	16	272
1975	64	13	179	2	12	270
1980	57	5	174	9	25	270
1985	50	13	174	20	21	278

⑤ 塩田新町

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	35	4	57	13	16	125
1975	23	5	75	5	10	118
1980	26	6	65	10	6	113
1985	29	1	56	12	8	106

⑥ 山田

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	43	9	47	5	5	109
1975	29	7	69	3	4	112
1980	23	3	69	2	9	106
1985	24	2	63	6	5	100

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
93	10	17	10	25	155	323
84	10	41	5	16	156	312
73	2	40	1	29	145	295
42	15	54	8	25	144	290

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
180	14	76	15	53	338	610
154	11	129	5	34	333	603
119	2	108	23	63	315	585
113	1	108	20	57	299	577

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
61	1	37	13	34	146	271
62	1	42	12	10	173	255
50	3	41	13	31	138	251
41		23	14	39	117	223

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
72	5	25	7	18	127	236
61	6	38	3	20	128	240
47	6	36	3	28	120	226
33	1	44	8	26	112	212

⑦ 野 倉

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	39	11	54	2	8	114
1975	23	16	59		4	102
1980	18	10	49	10	10	97
1985	12	2	41	10	10	75

⑧ 西塩田全地域

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	373	68	447	55	67	1,010
1975	271	69	563	22	52	977
1980	238	39	553	48	73	951
1985	206	38	528	63	67	902

(3) 東塩田地域

① 平井寺

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	40	3	36	12	3	94
1975	32	6	63	15	11	127
1980	17	12	52	5	1	87
1985	14	6	59		8	87

② 鈴 子

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	40	5	47	16	13	119
1975	32	6	63	15	11	127
1980	32	3	57	15	13	120
1985	36	4	67	4	4	115

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
64	14	17	7	6	108	222
54	7	32	1	1	95	197
33	3	24	14	22	96	193
16	2	23	9	24	74	149

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
615	46	236	63	169	1,129	2,139
547	39	343	37	115	1,081	2,058
440	16	307	65	204	1,032	1,983
343	21	305	75	206	950	1,852

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
47	4	26	7	11	95	189
78	7	23	9	19	136	263
34	10	29	1	6	80	167
38	6	24	2	8	78	165

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
78	2	21	15	30	146	265
78	7	23	9	19	136	263
58	2	32	12	26	130	250
68		41	4	16	129	244

③ 石 神

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	80	5	76		2	163
1975	48	11	76	6	13	154
1980	45	3	78	6	12	144
1985	49		73	11	7	140

④ 柳 沢

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	69	9	60	3	6	147
1975	42	6	76	1	13	138
1980	35	7	65	6	13	126
1985	39	4	52	13	13	121

⑤ 下之郷

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	146	16	152	20	34	368
1975	108	22	172	13	42	357
1980	102	11	171	15	34	333
1985	84	7	170	26	23	310

⑥ 奈良尾

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	83	16	64	10	22	195
1975	77	8	80	5	10	180
1980	69	6	69	8	13	165
1985	57	15	67	8	14	161

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
133	2	38		11	184	347
100	11	46	5	20	182	336
89	1	39	5	33	167	311
84	1	45	4	32	166	306

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
104	5	39	5	15	168	315
82	2	52	7	23	166	304
74		43	10	20	147	273
59	1	32	15	24	131	752

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
253	7	63	41	62	426	794
199	19	95	28	81	422	779
194	7	88	26	60	375	708
143	2	86	42	90	363	673

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
131	7	26	16	27	207	402
113	10	31	12	25	191	371
113	3	27	13	35	191	356
92	14	25	15	31	177	338

⑦ 中 組

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	100	7	104	15	14	240
1975	85	10	118	8	12	233
1980	69	3	115	7	15	209
1985	67	3	117	6	11	204

⑧ 下 組

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	62	15	87	3	9	176
1975	53	6	103	1	6	169
1980	35	7	95	2	19	158
1985	49	6	94	4	17	170

⑨ 東塩田全地域

	男					
	自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計
		自家農業が主	他の仕事の主			
1970	620	74	626	79	103	1,502
1975	474	74	738	54	111	1,451
1980	404	52	702	64	120	1,342
1985	395	45	699	72	97	1,308

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
170	2	55	13	24	264	504
140	4	69	7	26	246	479
126	1	52	20	41	240	449
115	1	68	9	37	230	434

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
115	6	53	7	29	210	386
102	2	56	2	28	190	359
86		46	9	34	175	333
74	2	53	16	39	184	354

女						計
自家農業 だけに従事	自家農業と他の仕事に従事		その他の仕事 だけに従事	仕事に従事 していない	小 計	
	自家農業が主	他の仕事の主				
1,031	35	321	104	209	1,700	3,202
865	59	394	73	226	1,617	3,068
774	24	356	96	255	1,505	2,847
673	27	374	107	277	1,458	2,766

第8表 雇入れ農家数と雇用労働形態

(1) 中塩田地域

① 下本郷

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	30	392	27	250	23	299	941
1975	19	244	11	88	7	51	383
1980	23	222	8	42	5	58	322
1985	8	95	4	43	11	59	197

② 上本郷

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	29	725	8	44	8	88	857
1975	39	541	31	156	16	78	775
1980	4	39	1	5	4	22	66
1985	21	151	10	32	4	11	194

③ 五加

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	119	2,819	61	617	26	320	3,756
1975	58	1,551	44	319	31	340	2,210
1980	46	797	20	85	24	138	1,020
1985	14	309			9	75	384

④ 中野

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	59	1,229	29	401	3	25	1,655
1975	28	220	25	187	3	30	437
1980	5	35	3	27	2	15	77
1985	8	52	8	75	8	53	180

⑤ 上小島

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	18	220	3	14	2	10	244
1975	32	253	18	104	3	6	363
1980	3	29	2	12	4	49	90
1985	8	64	2	8	4	35	107

⑥ 下小島

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	45	1,395	36	370	12	132	1,897
1975	20	374	13	115	7	25	514
1980	9	248	3	32	1	1	281
1985	11	138	5	73	17	108	319

⑦ 保野

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	64	1,235	48	402	50	507	2,144
1975	74	893	52	275	43	237	1,405
1980	56	451	12	51	15	151	653
1985	14	122	6	20	14	98	240

⑧ 舞田

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	32	782	20	99	30	362	1,243
1975	34	304	22	117	13	73	494
1980	22	195	6	33	12	99	327
1985	12	124	2	5	8	46	175

⑨ 八木沢

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	51	1,334	24	295	13	147	1,776
1975	61	976	14	76	12	73	1,125
1980	28	202	1	3	6	78	283
1985	14	124	3	13	10	46	183

⑩ 中塩田全地域

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	447	10,131	256	2,492	167	1,890	14,513
1975	365	5,356	230	1,437	135	913	7,706
1980	196	2,218	56	290	73	611	3,119
1985	110	1,179	40	269	85	531	1,979

(2) 西塩田地域

① 十 人

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	23	428	6	92	1	25	545
1975	15	265	7	44	15	156	465
1980	5	65	1	8	3	21	94
1985	1	4			7	155	159

② 東前山

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	38	718	30	280	33	356	1,354
197	34	725	23	192	24	245	1,162
1980	23	398	8	108	8	95	601
1985	11	132	7	66	6	85	283

③ 西前山

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	19	231	16	57	31	297	585
1975	41	491	10	60	17	86	637
1980	6	71	6	29	18	236	336
1985	8	69	2	8	14	140	217

④ 手 塚

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	75	1,298	52	426	40	508	2,232
1975	74	904	38	271	23	117	1,292
1980	31	282	7	41	7	30	353
1985	12	238	8	85	15	83	406

⑤ 塩田新町

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	37	557	14	96	14	104	757
1975	16	189	11	57	7	67	313
1980	25	193					193
1985	8	45			4	47	92

⑥ 山 田

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	25	534	7	57	5	50	641
1975	38	372	23	164	15	84	620
1980	16	125	15	70	25	146	341
1985	3	7	2	5	3	60	72

⑦ 野 倉

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	17	258	12	80	3	9	347
1975	12	128	19	113	9	47	288
1980	8	108	13	61	11	73	242
1985	2	11	7	23			34

⑧ 西塩田全地域

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	234	4,024	137	1,088	127	1,349	6,461
1975	230	3,074	131	901	110	802	4,777
1980	114	1,242	50	317	72	601	2,160
1985	45	506	26	187	49	570	1,263

(3) 東塩田地域

① 平井寺

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	27	460	19	206	17	75	741
1975	18	228	14	98	12	78	404
1980	11	107	6	28	7	30	165
1985	8	46	10	46	2	9	101

② 鈴 子

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	農 家 数	のべ人数	計
1970	49	943	15	152	5	37	1,132
1975	36	531	15	89	14	87	707
1980	11	140	4	22			162
1985	9	88	1	2	6	29	119

③ 石 神

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	44	1,063	45	484	31	652	2,199
1975	44	658	31	286	22	174	1,118
1980	20	364	18	117	30	191	672
1985	14	187	4	56	16	156	399

④ 柳 沢

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	44	824	27	252	19	191	1,267
1975			1	4			4
1980	17	210	8	43	5	25	278
1985	12	158	6	33	3	13	204

⑤ 下之郷

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	134	2,448	88	1,067	40	424	4,439
1975	81	1,445	60	505	29	246	2,196
1980	61	664	19	171	21	189	1,024
1985	22	288	10	75	32	259	622

⑥ 奈良尾

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	34	1,014	13	120	13	145	1,279
1975	32	777	11	83	12	117	977
1980	42	1,202	10	72	3	256	1,530
1985	20	485	1	5	6	92	582

⑦ 中 組

	臨 時 雇		手間替・ゆい		手 伝 い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	61	1,567	25	162	31	432	2,461
1975	55	888	31	166	12	98	1,152
1980	31	539	16	95	18	132	766
1985	27	211	6	28	21	149	388

⑧ 下 組

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	65	1,323	29	180	15	104	1,607
1975	38	599	32	257	17	144	1,000
1980	30	365	16	112	9	48	525
1985	7	72	5	24	21	174	270

⑨ 東塩田全地域

	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	計
1970	458	10,142	261	2,623	161	2,060	15,125
1975	304	5,124	195	1,488	188	944	7,556
1980	223	3,591	97	660	93	871	5,122
1985	119	1,535	43	269	107	881	2,685

由の最たるものは、やはり経営耕地規模の縮小傾向にある。

中塩田では、80年以降も臨時雇の減少がみられる。下本郷、五加、保野、舞田、八木沢などが顕著である。臨時雇の減少とともに目をひくのが、手間替・ゆいの減少である。集落なかんずく郷村的伝統として共同体的に受け継がれてきた労働の互換制、すなわち農繁期にたがいに労働力を提供しあって作業をすすめる、という制度がしだいに解体している現象がみられるのである。

五加では、85年に姿を消している。上小島、舞田、八木沢もその数をわずかにとどめているにすぎない。逆に、手伝い、と称する軽微の補助的雇用形態が、手間替の減少をわずかながらも補っている感がある。のべ人数は減少しつつも、手伝いをもとめる農家数が、85年になって若干ふえているのが看取できる。

西塩田では、十人、塩田新町で手間替が85年で姿を消している。また、中塩田同様、臨時雇の農家数、雇用のべ人数とも減少している。ここでは耕地規模の縮小もさりながら、養豚の大規模経営へ集約されていった合理化の影響も大きいとみるべきだろう。

十人では、85年に1ヘクタール以上層がなくな

るという規模縮小の影響が強く、野倉では、手伝いが85年で0になるのは、人口流出と無関係ではない。山田では、1.0～2.0ヘクタール層が85年に約7パーセント減少していることがひびいているのか、臨時雇・手間替ともに85年に激減している。

東塩田では、中塩田、西塩田にくらべれば、多少とも郷村的伝統を維持しえているといえる。しかし、全体的には、やはり減少の傾向は否めず、集落内の共同体的むすびつきはしだいに解体の方向にあると考えてよさそうである。

奈良尾、中組は比較的バランスのとれた農作物を産する集落であるが、80～85年では臨時雇・手間替とも減少させ、手伝いが農家経営を下ささえしているように補っている感がする。

柳沢は、農家数が85年にかけて約14パーセント減少しているのが影響している。鈴子は、85年に中規模層の0.5～1.0ヘクタール層が両極に分解し、農家経営の合理化が一層すすめられた結果ともみることができる。いずれにせよ、東塩田では、手伝いが臨時雇・手間替の減少を補っている感はあるが、中塩田、西塩田各地域と同様に全体的な営農の退潮ぶりが大きい減少率となってあらわれていると考えられる。

(9)

つぎに農用機械の普及状況を機械保有農家数についてみてみることにしよう。(第9表) この表の「歩行型」「15馬力未満」「15～30」「30馬力以上」のそれぞれは、「動力耕うん機・農用トラクター」をあらわしている。表の最後の項目に「動力田植機」のみをつけたしたのは、稲作主体の塩田地区でどの程度稲作関連の農用機械が普及しているか、をみたいがためである。

農用機械の普及を、省力化または、合理化と評価し、労働生産性の向上とむすびつくかどうかは、経営耕地規模、あるいは農作物の種類とも関連し、一概にはいえない。ただ、農用機械が農作業の効率化をはかるために導入された以上、それなりの成果がなければならぬし、省力化動機を否定することもできない。

一般に近年、全国的にも農用機械の大型化、効率化が叫ばれている状況下で、比較的小規模経営が圧倒的多数をしめる塩田地区では農用機械がどの程度、普及しているかをみることは今後の農業を考える上で重要である。

例によって中塩田地域からみていくことにする。なお「実農家数」の項にある()内は、農家総数で割ったものでパーセントをあらわしている。また、「歩行型」と称する動力耕うん機は、10馬力未満で、1975年までの農林業センサスでは、5馬力未満と5～10馬力にわけられていたものである。80年からは「歩行型」と一括したわけである。

さて農用機械の普及は、その保有農家数の増加状況からうかがえる。零細規模化がすすんでも動力耕うん機の普及はめざましい。もっともその普及に農業協同組合の過剰なまでの販売努力があずかって力があつたとしても、である。

集落によって若干差異はあるが、大体80年代にはいって普及の度合が高まっていくようすが表の数字から看取される。たとえば、下小島、保野、舞田がそれにあたる。五加は、それほどの普及割合をみせていないが、動力耕うん機の大型化が目につく。同時に、保野、八木沢とともに、動力田植機の普及が85年にはいってめざましい。零細化がとくにすすむ五加での機械の大型化は奇異にもとれるが、機械の共用や水稲作の請負増加を考え

れば、大型化の増加もうなづける。しかし、五加は、下本郷、中野とともに動力耕うん機の普及率は、概して低いということになる。

また、中塩田全体でも農用機械の普及はみられるものの、全国的レベルでみてもそれほどすすんでいるわけではない。たとえば、全国平均では、歩行型と15馬力未満をあわせると74パーセントの普及状況をしめしているのとくらべれば、58パーセントという数字はかなり低いという評価がでてこよう。つまり、基本的には零細小規模耕作に農用機械の個人所有は、おさえられているという見方が成り立つ。

西塩田地域では、75年から急速に普及しはじめている。十人、東前山、西前山、手塚では、80年にはいって普及速度がはやまっている。山田では85年に驚異的な普及をみせている。このように使われる動力耕うん機のほとんどが、歩行型である。ただ、85年になると、農用機械の大型化が目をひく。15～30馬力という大型動力耕うん機・農用トラクターの導入をすすめる農家の経営負担もさりながら、どの程度の生産効率を高めているのかは検討する必要がある。水田から畑作へと減反による作付転換は、85年にかけてより一層積極的に、すなわち、集落ごとの減反割当を強制するなかでおしすすめられてきたことと関係がある。

農作物別収穫面積の推移をみると、それが明瞭になる。麦・いも・豆類といった作物が、西塩田において70年で10パーセントしかしめていなかったのが、85年では20パーセントをこえているという例からもその変化がわかる。

畑作での省力化をはかるために大型農用機械の導入は、それなりの成果をあげるが、経営負担から考慮すると、作付転換補助金をいれても今後の経営になんらかの影響をあたえることになる。先にも指摘した西塩田の山田では、85年に94パーセントという普及をみせている。その山田の農作物別収穫面積についてみると、80～85年にかけて稲作面積が約60パーセント、1,221ヘクタール減少し、逆に麦が、新たに1,189ヘクタール増加しているのである。はげしい作付転換を実施したわけであるが、それと同時に、積極的な農用機械を導入したことが今後どう有効にむすびついていくかが注目されることである。

第9表 農用機械の普及状況

(単位：戸 ()内は、農家総数にしめる割合%)

(1) 中塩田地域

① 下本郷

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	20 (32)	21	1			
1975	25 (41)	29	1			1
1980	24 (39)	23	1			12
1985	28 (51)	27	1	3		11

② 上本郷

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	19 (27)	20				
1975	21 (29)	19	1	1		1
1980	31 (46)	21	8	4		14
1985	42 (65)	38	3	4	1	12

③ 五加

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	44 (22)	45	3	1		
1975	47 (27)	47	6	2	1	7
1980	73 (42)	67	2	12	1	23
1985	78 (46)	69	4	17	1	38

④ 中野

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	16 (20)	16		1		
1975	21 (27)	21	2	1		9
1980	40 (53)	40	1	4		23
1985	43 (57)	41	3	3	1	21

⑤ 上小島

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	19 (42)	19	1	1		
1975	28 (60)	28	2	1		5
1980	28 (61)	27	2	5		17
1985	30 (67)	28	3	8	1	17

⑥ 下小島

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	27 (38)	32	1	1		
1975	31 (41)	36	3		1	8
1980	39 (57)	36	2	5		26
1985	50 (72)	43	7	6	3	26

⑦ 保野

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	54 (37)	54		2	1	
1975	60 (42)	62	3	3	1	5
1980	71 (53)	63	13	11		38
1985	80 (63)	70	9	13	4	43

⑧ 舞田

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	23 (28)	23				
1975	32 (41)	31	2			9
1980	40 (52)	36	1	4		22
1985	55 (71)	46	12	13		26

⑨ 八木沢

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	41 (35)	40	1	1		
1975	57 (48)	58	1	1		8
1980	60 (50)	56	4	9		43
1985	71 (59)	53	14	16	1	42

⑩ 中塩田全地域

	実農家数	歩行型	15馬力未満	15～30	30馬力以上	動力田植機
1970	263 (30)	270	7	7	1	
1975	322 (38)	331	21	9	3	53
1980	406 (49)	369	34	54	1	218
1985	477 (59)	415	56	83	12	236

(2) 西塩田地域

① 十 人

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ～ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	17 (39)	18				
1975	24 (32)	25	3			8
1980	31 (76)	29	5	4		22
1985	30 (81)	26	8	5		23

② 東前山

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ～ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	49 (49)	55	1			
1975	65 (69)	73	4	1	1	4
1980	79 (81)	75	4	1	2	10
1985	69 (78)	63	7	8	2	17

③ 西前山

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ～ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	57 (61)	59	1			
1975	69 (76)	78	1		2	4
1980	69 (79)	66	4	8	2	27
1985	73 (86)	66	12	16	2	32

④ 手 塚

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ～ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	67 (37)	69	1			
1975	113 (65)	131	1			10
1980	134 (76)	125	18	11		48
1985	133 (75)	119	10	27	1	53

⑤ 塩田新町

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ～ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	14 (18)	14	2			
1975	21 (28)	21	2	2		2
1980	32 (45)	32	1	5		26
1985	37 (57)	33	3	7	1	20

⑥ 山 田

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	43 (61)	45				
1975	49 (70)	53	1			8
1980	54 (78)	46	8	3		21
1985	60 (94)	55	6	7		29

⑦ 野 倉

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	28 (44)	29				
1975	44 (73)	47		1		
1980	43 (77)	37	6			2
1985	32 (74)	27	6	2		6

⑧ 西塩田全地域

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	275 (44)	289	5			
1975	385 (63)	428	12	4	3	36
1980	442 (74)	410	46	32	4	156
1985	434 (77)	389	52	72	6	180

(3) 東塩田地域

① 平井寺

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	13 (25)	13				
1975	22 (42)	21	5			
1980	23 (47)	21	3			6
1985	36 (77)	34	3	2		5

② 鈴 子

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	20 (29)	19	1			
1975	39 (53)	43				1
1980	40 (57)	38	2		1	7
1985	53 (80)	51	3	5		16

③ 石 神

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	43 (43)	42	1			
1975	54 (54)	60	2			4
1980	51 (54)	48	3	1	1	20
1985	76 (86)	71	4	6	1	27

④ 柳 沢

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	36 (39)	36				
1975	52 (57)	54				8
1980	56 (67)	54	1	6		13
1985	56 (72)	49	5	5		15

⑤ 下之郷

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	118 (52)	124	1			
1975	118 (54)	120	7	1	1	12
1980	126 (60)	105	21	12	2	66
1985	136 (67)	122	16	18	2	85

⑥ 奈良尾

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	65 (57)	67	1			
1975	79 (72)	90	3	2		1
1980	90 (83)	87	5	9	1	11
1985	91 (89)	87	14	12	4	20

⑦ 中 組

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	69 (49)	72				
1975	84 (62)	92	3			9
1980	96 (71)	85	19	7	1	41
1985	103 (79)	87	19	16	3	43

⑧ 下 組

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	69 (66)	66	5	3		
1975	76 (74)	75	7	4	1	16
1980	82 (80)	79	5	14	4	44
1985	86 (86)	75	13	18	4	43

⑨ 東塩田全地域

	実農家数	歩 行 型	15馬力未満	15 ~ 30	30馬力以上	動力田植機
1970	433 (48)	439	9	3		
1975	524 (59)	555	27	7	3	51
1980	564 (66)	517	59	49	10	208
1985	637 (78)	576	77	82	14	254

東塩田地域では、85年にかけて農用機械の普及が強まったようである。平井寺、鈴子、石神では85年に約80パーセント前後の普及をみせている。奈良尾、下組では80年から普及がはやまっている。下之郷は、稲作中心の集落ということもあって、80年から動力田植機が急速に普及しはじめている。同様のことは、下組にもあてはまる。

一方、農用機械の大型化、とりわけ15馬力以上の耕うん機・トラクターの導入が、80～85年に積極的におこなわれている。また、あわせて動力田植機も全体に普及速度をはやめている。むしろ歩行型の動力耕うん機は、飽和状態に達している、と考えてよい。減反がすすめられていくなかで、動力田植機が普及していくのは、農協をはじめとする業者の販売促進にもよるが、やはり基本的には、2兼化過程での省力対策の結果とみるべきだろう。

こうした農用機械の積極的導入が、85年にはいって一層すすんだこと、そして、それによって、農家の雇用労働形態が変化したことなどが指摘されよう。すなわち、臨時雇、手間替・ゆいの減少となってあらわれてきた。中塩田では稲の請負耕作化がすすんでいるため、機械の普及は今後どこまでのびるかは想定できない。しかし、西塩田、東塩田では機械導入で、雇用形態が変わり、これ

まで以上に郷村的むすびつきが、弛緩する傾向になると予想される。

東塩田地域における工業団地の建設(1985年)は、さらに他産業への就業機会を増加させ、農家の就業状態の変容をせまる促進役をはたすことになろう。農業をとりまく経済環境は、85年からめまぐるしく変化しており、それにどう対応していくかが問われてくる。塩田地区も例外ではない。その意味で農用機械の積極導入が、農家経営にもたらす影響、あるいは生産効率の向上、つまり省力化による余剰労働力をうけいれる地域労働市場の問題が、ひきつづき検討される必要がある。⁽⁴⁾

(10)

1970年に塩田町が上田市と合併し、市制のなかに組み込まれてきた。それまで、塩田地区は上田旧市街地を中心とした近郊農村地帯であったが、やがて商業、工業の進出、そして宅地開発をうけいれ、その相貌を変えようとしている。気がかりなのは、その変わり方がいまのところ無秩序に進行しているのではないか、という点である。たとえば地方都市ではあっても、大都市圏にみるようなスプロール化がゆるさされてよいものではない。快適な都市空間を先取りするような都市計画があっ

てよい。

塩田地区が農村地帯ではあるが、現実に農家数や農家人口で年々減少をみせているのは事実である。住民の都市的機能、すなわち、病院、下水道、公園、図書館などに対する要望も強まってこよう。⁽⁵⁾しかし、全体としてみれば、塩田地区はいぜんとして社会生活の上で農業に依存した地域である。その依存の割合は、中塩田を中心に少なくなっているが、農業のかかえる悩みが、生活に波及する度合はやはり大きい。

ちなみに、筆者が主催するセミナーの学生諸君が、1985年に実施した簡単な農家のアンケート調査がある。そこにも塩田地区の農家の悩みがあらわれて興味深い。そのおもな事例を1～2紹介して小稿を閉じることにしたい。

対象農家数は、約70戸。内訳は中塩田地域が40戸、西塩田が15戸、東塩田が15戸である。専業・1兼・2兼と分けしたが、ここではその区別なしに紹介してみよう。

まず減反による影響をたずねてみた。中塩田では減反によるマイナスの影響は少なく、過半数が減収をそれ程認めていない。西塩田、東塩田は6割以上がマイナスの影響をうけた、と答えている。ただし、減反政策については、どの地域も7割以上が反対し、農業政策のあり方に疑問を感じている農家が多かった。

つぎに今後どういう農産物を手がけたいか、という質問をした。解答数の多いものからあげると、(1)付加価値の高い農作物 (2)果樹、花きに力を入れる (3)特産物をつくる (4)水田に力を入れる、などであった。なかでも(1)の高付加価値農産物、たとえば施設園芸などに対する関心が高く、3割強の数字をしめしていた。

しかし、農業だけに依存していこうという姿勢は少なく、他産業への就業機会の拡大を望む声も多い。同時に、後継者問題ともからんで、農業の先細りに不安感を表明する言葉もあった。

最後に、農協に対する期待では、(1)営農指導の強化 (2)水田の請負耕作の推進（とくに中塩田で多い）、(3)共同経営の推進 (4)組合員の利用しやすい農協などがあった。このなかでは、とくに営農指導に対する要望が4割ちかくあった点に注目したい。積極的な営農姿勢が、こうした要望に感

じられるからである。もっとも、女性にもできる作物を指導して欲しい、という要望もあり、女性の農業に力める比重をうかがわせる。

いずれにせよ、農協が地域ではたす役割の大きいことは否定できない。農家の農協に対する期待は、全体としてはやはり大きい。営農指導をふくめた積極的な取り組みが農協にもとめられている。

また、高齢化や後継者問題に今後どう取り組んでいくかは近い将来の問題である。⁽⁶⁾塩田地区農業のかかえる問題は、行政レベルでも真剣に取り上げていく必要がある。そうでなければ、郷村的伝統を根づよくもつ地方都市近郊農業地帯では、「まちづくり」という市民運動はなかなか育ちにくいのではないだろうか。

註

- (1) 拙稿「地方都市近郊農業の現況と課題(1)」(「長野大学紀要」第8巻第1号 1986年)
- (2) 拙稿 前掲論文
- (3) 農業就業の形態を他産業すなわち農外就業の形態との関連で具体的に検討されたものとして、御園喜博「兼業農業の構造」(1983年)がある。他に、平塚貴彦「水稲請負耕作の経営と経済」(1976年)がある。さらに、御園喜博編著「兼業農業の再編」(1986年)の第1編「兼業農業再編＝地域農業再建の方向と課題」を参照。
- (4) 「「塩田地区まちづくり」のための基礎的研究」という我々共同研究者のひとりである高橋満氏の「地域労働市場と兼業農家の労働と生活」(「長野大学紀要」第8巻第1号 1986年)を参照。
- (5) 安井幸次「上田市塩田地区における地域生活と住民意識」(「長野大学紀要」第6巻第4号 1985年)
- (6) なお、塩田地区をふくめた上田市地域の農業問題については、ひきつづき昭和61、62年度文部省科学研究費補助一般研究(B)「地方都市の存立構造と展望——長野県上田市の事例研究」で検討がくわえられていく。